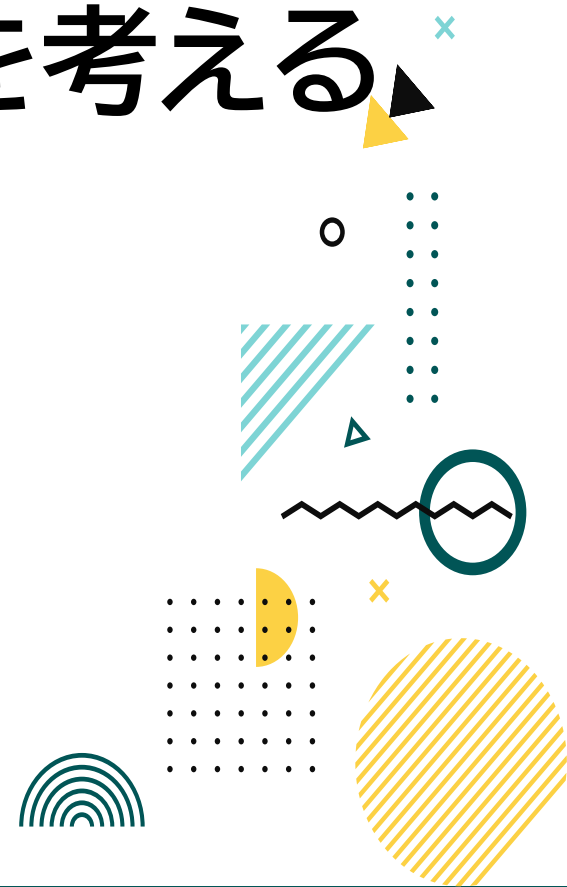


これからの「災害から地域を守る」を考える 開催報告

北海道気候変動適応センター
(報告者 公益財団法人北海道環境財団)



開催概要

目的

- ・ 適応策に関する**最新の知識を提供**すること
- ・ 適応策にかかる**普及啓発活動意欲の向上**すること
- ・ **参加者間の交流**を促すこと

対象

- ・ 北海道地球温暖化防止活動推進員
- ・ 環境・防災分野の普及啓発に関心のある方
- ・ 環境・防災分野に係る行政職員

参加者

20名

“もしも”を体験し、“学び”と“つながり”をひろげる日。

これからの

「災害から地域を守る」を考える

対象：北海道地球温暖化防止活動推進員 / 環境・防災の普及啓発に関心のある方

環境・防災分野に係る行政職員

4月30日(木) 13:30-16:45 (予定)

開場：13:00

EZO HUB SAPPORO HIGUMA HALL
(札幌市東区北8条東4丁目1-20 サツドラ本社2階)

定員
30名

講座

これからの 北海道の大雨を考えよう

講師

大屋 祐太 さん

(地独)北海道立総合研究機構
エネルギー・環境・地質研究所研究職員

過去の風水害を振り返り、気候変動による
将来の大雨リスクを解説。「北海道で線状降
水帯はこれからも発生する？」という疑問にも、
科学的知見からわかりやすくお答えします。

ワークショップ

カードゲーム型防災研修プログラム 風水害24 体験

ファシリテーター

松江 佳月 さん

北海道地球温暖化防止活動推進員

実際に起きた大規模風水害をモデルに開発された
ゲームを通じ “災害が発生したら…”を疑似体
験することで、混乱のなか、どんな判断や行動が求
められるのか、学び取ります。

講座

風水害は救える命

講師

川内 佑紀 さん

(株)YAKUSHO 代表取締役

“災害に強いまちづくり”に取り組む川内さんのお話から、被災現場の実情を知り、
“もしも”のために、いまからできる備えについて
学びます。

グループディスカッション

感じたこと、課題、悩み、アイデアなどを、参加者間で
共有しあいます。

お申し込みはコチラ

主催：北海道防災活動推進センター
後援：SIP第3期課題「スマート防災ネットワークの構築」サブ課題B「リスク情報による防災行動の促進」
お問合せ：公益財団法人北海道環境財団 TEL:011-218-7811 Mail:tec_action@heco-spc.or.jp



開催プログラム

講演

これからの北海道の大雨を考えよう (北海道立総合研究機構 大屋氏)

- 風水害の定義
- 風水害対策の歴史
- 気候変動による将来の大雨リスク

風水害は、予測し、準備できる災害だからこそ
平時から対策を進めていこうというメッセージ
をいただきました。



開催プログラム

ワークショップ

カードゲーム型防災研修プログラム 風水害24 体験

(北海道地球温暖化防止活動推進員 松江氏)

- 会場をある町と想定し、
“もしも災害が発生したら・・・”を疑似体験

緊迫の状況の中で、**自分と地域を守る難しさ、
日ごろの備えの重要性、**を体験いただきました。



開催プログラム

講演

風水害は救える命

(株式会社YAKUSHO 川内氏)

- 東日本大震災、胆振東部地震、能登半島地震などへの応援派遣のご経験
- 被災地の実態について
- 日ごろの備えや関係機関の連携の重要性

風水害は、**防災気象情報を活用し、公助と共助が重なることで、犠牲者ゼロを目指せる**というお話をいただきました。



参加者からの感想など

- 講座やワークショップを通して、専門家の方々の知識を交えながら、防災を「自分ごと」として捉えるきっかけをたくさんいただき、とても有意義な時間でした。
- 行政職員、研究者の方とつながる機会にもなり、今後の活動にも活かしていきたいです。

気候変動によって、どのようなリスクが高まるのかを伝えるだけでなく、**そのリスクに対して「自分や地域で何ができるのか」**まで結び付けて考えてもらうことが重要。

（講演×体験型WSは有効だと思います！）



グループディスカッションの様子

今後の取組について

- 「自分ごと化」そして「行動」へ

身近な気候変動の影響をお伝えし、その自分ごと化、行動までを見据えた普及啓発に取り組む

- 「つながり」から「取組の広がり」へ

気候変動適応に取り組む人々の交流機会の創出に努め、地域での取組の広がりにつなげる。

**今後とも、北海道気候変動適応センターの協力機関として
適応の取組に係る普及啓発に努めてまいります。**